

原子力空母の 横須賀配備がねらうもの

2008年5月5日 9条世界会議自主企画「東アジアの平和と米軍再編」
木元茂夫(すべての基地に「No!」を・ファイト神奈川)



写真 2008年2月 佐世保に入港した原子力空母ニミッツ。(RIM PEACE 編集部提供)
海上自衛隊との対潜水艦作戦訓練のあと韓国の釜山に入港。(「世界の艦船」5月号より)
手前は韓国海軍の最新鋭潜水艦ソン・ウォンイル。原子力潜水艦オハイオも釜山に入港した。



空母の母港 - すでに 35 年。“あきらめ”から意思表示への転換

1973年10月5日 空母ミッドウェイ横須賀に母港配備

- ベトナム戦争後の米軍再編の一環。陸軍部隊のベトナムからの撤退と空母の前進配備

1976年9月8日 厚木基地第一次爆音防止訴訟、横浜地裁に提訴。

1977年9月27日 ミッドウェイの艦載機 RF-4 ファントム、横浜市緑区の住宅に墜落。

(空母配備以前にも、海兵隊の飛行連隊配備。1964年に町田、大和に1965年に相模原で墜落死傷事故)

1990年 二隻目のイージス艦モービルベイ配備。

1991年 ミッドウェイに替わり、空母インデペンデンスが母港配備。

原子力空母配備への「地ならし」

1996年 原子力空母カールビンソン横須賀入港。

1997年 原子力空母ニミッツ横須賀入港。以後、10年間横須賀には原子力空母の寄港なし

「横須賀寄港は将来、原子力空母が横須賀を母港とするという予測に日本人を慣れさせることが目的

だった」(ニミッツ幹部) 長崎県・佐世保には、毎年のように原子力空母が入港。

1998年 原子力空母横須賀配備、はじめての報道。

インディペンデンスに替わり、空母キティホークが母港配備。

米艦船、スーダンとアフガニスタンにトマホーク攻撃。基地公開中止に。

「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」結成。

署名運動開始 要求項目

私たちは、原子力空母の横須賀母港計画を断念させるために、次のことを横須賀市長に求めます

港湾法 37 条に基づく市長の権限によって、12 号バースの延長整備工事を認めないで下さい。

原子力空母の母港計画・寄港のストップを表明し、そのために必要な行動をとってください。

東海村 JCO 臨界事故の衝撃

1999年 通常動力空母コンステレーションが横須賀入港。

東海村 JCO 臨界事故、住民避難。横須賀市に衝撃。

2000年 1月13日 横須賀市、米海軍とはじめての「防災連絡会議」を開催。

原子力空母配備への基地改造 12号バースの延長工事開始 - 思いやり予算

横須賀市、原子力防災訓練を開始。

2001年 第1回署名提出。約7万名

2002年 横須賀市、原子力防災訓練を住民、児童の避難訓練などの大掛かりなものに。

沢田市長の下、消防局など担当部署は真剣に訓練に取り組んだ。ヨウ素剤の購入も。

2005年 2月10日 米海軍のクラーク作戦部長、上院軍事委員会で横須賀に原子力空母配備を表明

2月17日 沢田市長、町村外務大臣に要請。

2月22日 横須賀市議会、「原子力空母の配備に反対する決議を採択」

2006年 3月「市民の会」など、50万の署名を横須賀市に提出

4月、12号バースの延長工事完了。米海軍に提供される。

米海軍「合衆国原子力軍艦の安全性に関するファクトシート」を提示。

5月 横須賀市、「後継艦問題」公聴会。非公開、発言制限などで紛糾。

6月 麻生外務大臣(当時)、横須賀市を訪問。蒲谷市長、原子力空母容認へ転換。

11月 原子力空母配備への基地改造 6号ドックの山切り崩し - アメリカ海軍



予算で、環境アセスメントなど無視して工事開始。純水製造プラント、ガス発電所などを建設。
この強引なやり方には要注意である。サンディエゴ軍港には放射能作業施設がある。

「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」結成。

11月10日～12月10日 原子力空母の是非を問う住民投票実施を求める直接請求署名
横須賀市 有権者 353,942人 人口 422,673人(2006年12月時点)
署名数 41,591名 有効署名 37,858名 有権者の10.6%を超える。

運動の担い手の予想を大きく上回った。

横須賀市民の意識の確かな変化。“あきらめ”から“意思表示”へ
イラク戦争の泥沼化。相次ぐ原子力艦船の事故。日本が安全審査をできない原子力空母。
キティホーク乗組員による女性会社員殺害事件。などなど...

2007年 2月 横須賀市議会条例案を10対31で否決

4月 横須賀市議選、原子力空母反対派得票伸ばし賛成派は得票減少。残念ながら議席増にはならず。

7月 しゅんせつ工事差止め訴訟提訴。

8月10日 原子力空母受入れのためのしゅんせつ工事開始。

8月27日 原子力空母の安全性 - 説明会

2008年 2月28日 しゅんせつ工事差止め訴訟に却下判決。

再度のチャレンジ

3月6日～4月6日 原子力空母の是非を問う住民投票実施を求める直接請求署名

横須賀市 有権者 353,942人 人口 421,011人(2008年3月時点)

署名数 52,438名 有効署名 48,661名 有権者の13.7%を超える。

蒲谷市長の「安全対策」では、市民は納得していない。

署名に込められた横須賀市民の思いに応え、全国的な運動の盛りあがり

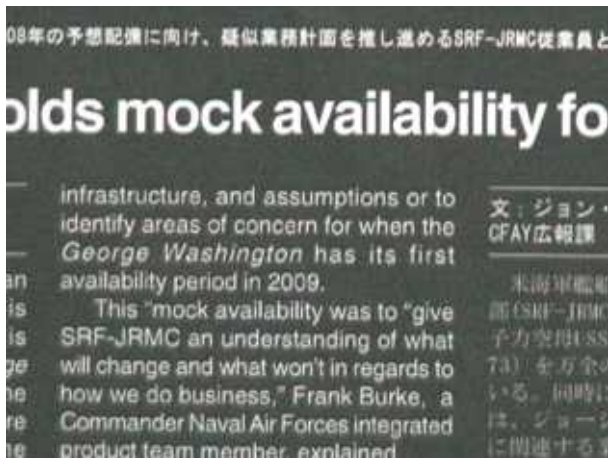


写真 井原勝介前岩国市長も応援に駆けつけ、住民投票の重要さを訴えた。「国防事項にこそ、住民の意思が反映されなければ」と熱弁をふるった。(3月29日 横須賀中央駅前)

雨二モ負ケズ風邪二モ負ケズ...



米海軍はすでに、母港配備後の修理へ向けて準備開始 - 最初の修理業務は 2009 年



擬似業務計画を作成し、作業手順、必要設備を確認している。原子力空母整備用に改造された台船

ミサイル防衛体制の整備 SM-3 搭載の巡洋艦シャイロをはじめ、

長距離監視監視及び追尾能力をもったイージス艦を、横須賀基地に配備



イージス艦あたごの漁船との衝突事故。ハワイでの SM-2 発射試験の報告に横須賀に向う途中に起きた。清徳丸は真っ二つに破断され、船体は横須賀市長浦の自衛艦隊司令部前に。加害者の管轄する土地に証拠物件を置くのはおかしい。3月に6隻目のイージス艦「あしがら」が佐世保に配備された。



あたごの艦首下の喫水線付近には、衝突時の白い傷跡が残る。